

行政視察内容報告書

令和2年11月11日

土佐清水市議会

議長 永野裕夫様

(提出者) 会派名 新風会

氏名 弘田 条



下記のとおり報告します。

項目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察	<input type="checkbox"/> 要請・陳情関係
	<input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input type="checkbox"/> 会議への参加	<input type="checkbox"/> その他 ()
参加者	永野裕夫 細川博史 山崎誠一 弘田条		
	計 4 人		
期日	令和 2 年 11 月 5 日 ~ 令和 2 年 11 月 6 日		

【概要】(年月日・場所・内容)

日時 令和2年11月5日

場所 荒川電工テクニカルセンター

内容

令和2年2月に荒川電工を訪問し、今ノ山風力発電について学習したが、更に詳しく環境アセスメントの内容等について学習するため、高知市瀬戸にある荒川電工テクニカルセンターを訪問し、説明を受けた。

1. 環境影響評価の手順について

配慮書→方法書→調査(現在調査中)→予測・評価→準備書→評価書→事後調査→報告書の順で行われる。

2. 事業概要

出力: 38Mw 1基あたり 4. 2Mw

基数: 9基

ローター直径: 115. 7m

全高: 149. 9m

3. 主要な現況調査の概要

○大気質、騒音及び超低周波音

○水質

○動物(哺乳類・一般鳥類・両生類・昆虫類・魚類・底生動物・渡り鳥)

- 景観
- 植物・生態系
- 調査方法について

4. 質疑内容について

- 風車間の距離は 300m～400m
- 羽根の長さは 60m
- 輸送方法は、あしずり港から今ノ山へ移動する。60mの羽根は、あしずり港の出口は、バックして出る。途中のカーブで曲がりにくい場所は、羽根の後側が上がる様になっており、輸送出来る。
- 風車設置場所の面積は 17m×17m程度となる。
- 超低周波音は、20Hz で人に聞こえない音であり、環境アセスメントを行わなくてもよいこととなっているが、調査を行う。また、人体には影響ないと言われている。
- 斧積からレーダー基地が見える。基地と風車の距離は 1. 2Km でレーダーの支障にならないことを確認している。
- 菅首相が 2050 年温室効果ガスゼロを宣言したが、今後も更に再生可能エネルギー活用に向け取り組んでいく。

日 時 令和 2 年 11 月 6 日

場 所 梶原町役場・町直営風力発電設置場所（四国カルスト）

内 容

梶原町役場環境整備課を訪問し、梶原町直営の風力発電設備についてや、梶原町が行っている自然エネルギーによるまちづくりについて調査を行った。

1. 梶原町の取組について

- 梶原町風力発電所について

平成 11 年 11 月 1 日より運用開始

設置場所：四国カルスト

総工事費：4 億 4 千 5 百万円

生産国：デンマーク製

発電能力：600Kw×2 基

年平均発電量：2, 165MWh

令和 2 年度で FIT（固定価格買い取り制度単価 19 円）が終了し現在は、7. 15 円となっており現在の 2 基を廃止し、2000Kw×1 基に変更するよう計画中

- 太陽光発電施設について

一般家庭 160 戸約 695Kw 公共施設 33 施設 536Kw

○水力発電所について

町直営の水力発電所があり、発電出力 53Kw 年平均 263Mw を発電している。発電した電気は、昼間は小中一貫教育校の「栲原学園」へ、夜間は町中の街路灯 82 基に供給している。

○ゆすはらペレットについて

平成 20 年 4 月から操業開始、年間木質ペレット 1,700 t。各施設の冷暖房・給湯器、木質ペレットストーブ、園芸ハウスなどに利用している。

○環境学習の取組について

手作り太陽光発電事業や小学生の社会科見学などを実施。

2. 質疑内容について

○小水力発電について補助を行っているが、民間の事業運用はなし。

○風力発電所についての町民からの苦情はない。

○FIT 後、平成 11 年に運用が始まって 20 年経過したので売電単価が 19 円から 7.15 円になった。今後、新たに 2Mw×1 基の計画をしている。

○様々な補助制度があり、暖炉・エコキュート・ペアガラスなどについて設置の際補助を行っている。

○地域新電力の取組として、水力発電所で発電した電力を学校や街路灯に供給している。

3. 風力発電施設の現場視察について

四国カルストで天狗高原の天狗荘の近くに 2 基設置されている。当日は、すごく冷たい風が吹いており、風車も勢いよく回っていた。10m離れた場所で風車の風切り音を聞いてみたが小さい音しか聞こえず、50m離れたら音は全く気にならないと感じた。四国電力への売電は、風車間に電気室（キュービクル）があり、高圧電圧で送電していた。また、当日県外ナンバーの自動車が 7～8 台来ていたが、四国カルストとあわせ観光地としても利用されていると思った。

4. 栲原町の取組について思ったこと

栲原町環境整備課には多くの職員が配属され、自然エネルギーについての取組を十分行っており、風力発電所・太陽光発電・水力発電所・木質ペレット及び各種の補助制度など、常に地球温暖化や自然エネルギーについて考えて業務を行っていると感じた。

